

名古屋・山田高野球部 3年ぶり単独出場

部員ゼロ 信じて続けた



女子マネ孤軍奮闘

3年ぶりに単独出場する山田高野球部員と水谷信也監督（左から2人目）。左端はマネジャーの北野紗和さんと名古屋市西区の同高で

名古屋市西区の山田高野球部は今夏、三年ぶりに単独チームとして、全国高校野球選手権愛知大会に出場する。部員数は一時ゼロとなり、当時一年生だったマネジャーの三年、北野紗和さん（モ）一人だけが残り、部を存続させた。「紗和さんのために」。

一、二年生十二人は一丸となって初戦突破を目指す。

（森本尚平、後藤正樹）

同校は現在、全校生徒八百四十人。強豪のダンス部があり、制服のデザインや商業施設に近いなどの理由から女子生徒に人気が高く、男子生徒は二百九人で三割に満たない。野球人口の低下も相まって、野球部員数は減っていた。

一〇二二年は単独チームをつくられず、他校との連合チームで活動。夏の大会後に三年生三人が引退すると、部員はゼロに。北野さ

んを含め一、二年生のマネジャーが四人いたが、試合も連合チームも組めない状況にマネジャーも次々と辞めていった。同校に赴任したばかりの水谷信也監督（モ）は「辞めたいなら辞めてもいい」と言った。だが、弟が野球をやっていた影響で、野球部のマネジャーを志した北野さんは「辞めませんと。信じて続けたいです」と力強い言葉を返した。

「新しい部員が入ってきたときのために準備をしよう」。北野さんは、他校の練習や試合に参加して、スコアブックの書き方や練習の手伝い、アナウンスのやり方などを学んだ。部室の整理整頓も進めた。その間、水谷監督は中学校やクラブチームなど二百チーム以上をあいさつ回りし、山田高野球部の存在を知ってもらうよう心掛けた。

結果、二年には七人の選手とマネジャー一人が入部。連合チームでの公式戦出場が可能となっ

た。「続けてきてよかった」と北野さん。今年はさらに一年生の選手七人、マネジャー三人が入り、現在は選手が十二人。単独での出場がなかった。水谷監督は「山田が強くなれば、学校にも活気が出てくる」と期待する。

二年の飯尾啓大主将（モ）は「紗和さんがいなかったら山田高野球部はなくなっていた。今年で卒業する紗和さんのためにも、向とか一勝をもぎ取りたい」。北野さんと監督の姿を見て入部を決意したという二年のマネジャー、樋口未空さん（モ）は「紗和さんは憧れの存在。いい思い出を残せるようにチームの雰囲気良くしたい」と意気込む。

北野さんは大会中、野球部の記録員としてベンチに入る。お守りに加えて、折り鶴で文字を作り、選手の活躍も後押し。「みんな頑張っているのが本当につらい。合ができるのが本当につらい。たくさんの選手が入って続けてくられて『ありがとう』という気持ちでいっぱい」と話す。

山田は大会初日の七月一日、昨年の大会でベスト16入りした東浦と対戦する。

増減で連合チーム

犬山総合、春日井西は単独復帰

全国高校野球選手権愛知大会に今年は、「緑丘・東海学園・春日井泉」「一色西高校も連合チームから単独に復帰。鶴田賀宣理事長は「監督の熱意によるものが大きい」と話す。日本代表がワールド・ベースボール・クラシック（WBC）で優勝した効果で、一年生の入部が増えたケースも一は連合チームで出場する学

校が増える中、今年は山田

のほか、犬山総合、春日井

西高校も連合チームから単

独に復帰。鶴田賀宣理事長

は「監督の熱意によるもの

が大きい」と話す。日本代

表がワールド・ベースボ

ール・クラシック（WBC）

で優勝した効果で、一年生

の入部が増えたケースも一

は連合チームで出場する学